

現況	
施設完成後	 <p data-bbox="256 1711 1203 1771">注 1) 百貨店新館（既存）と計画施設との外観に連続性を持たせる計画を検討している。 2) 歩道橋架替事業が計画されており、その内容を反映させた。</p>
眺望の変化	<p data-bbox="256 1778 1442 1868">現況では、（主）大阪高石線の両側に近鉄百貨店、天王寺MIO及びあべのルシアスなどの中高層建築物が立ち並び、阿倍野・天王寺地区における目抜き通りの1つとして都心部の街路景観を形成している。この視点場では、近鉄百貨店が、その代表的な建築物となっている。</p> <p data-bbox="256 1872 1442 1995">施設完成後は、計画施設の低層階の北面が視認できる。既存施設に比べ高いビルが設置されるため、スカイラインの一部に変化はあるものの、透明感があり、落ち着いた色調で周囲と調和している。透明感のある洗練されたデザインは、目抜き通りにおける代表性をより高める効果をしており、大阪の南の玄関口にふさわしい新たな景観を創出しているものと考えられる。</p>

図 5.12.2 (1) 景観写真（地点1：天王寺Mio前）

<p>現況</p>	
<p>施設完成後</p>	 <p>注 1) 計画施設と隣接する商業施設 (Hoop) への歩行者デッキの建設計画があり、その内容を反映させた。 2) 百貨店新館 (既存) と計画施設との外観に連続性を持たせる計画を検討している。</p>
<p>眺望の変化</p>	<p>現況は、狭い道路の両側に中高層の建築物が立ち並ぶ街路景観で、やや圧迫感を与えるものとなっている。</p> <p>施設完成後では、既存建築物の位置に計画施設が置き換わる形で建設されるので、構造的な景観の変化は少ない。また、隣接する商業施設 (Hoop) と接続するデッキについては、透明感のあるデザインとする計画であり、圧迫感の軽減を図っていると考えられる。</p> <p>計画施設は透明感のある洗練されたデザインで、また、落ち着いた色調で計画されていることから、周辺施設との調和したものとなっており、統一感のある街路景観を形成するものと考えられる。</p>

図 5.12.2 (2) 景観写真 (地点 2 : Hoop 北東角)

<p>現 況</p>	 <p>注) 歩道にアーケードが架かり、横断歩道部でしか事業計画地の全体を見ることができない。</p>
<p>施 設 完 成 後</p>	 <p>注1) 道路拡幅事業が計画されているが、将来の歩道位置からの検討ができないため、現在の歩道位置での予測写真を作成し、眺望の変化について整理した。 2) 街路拡幅事業、阿倍野再開発事業及び歩道橋架替事業が計画されており、その内容を反映させた。</p>
<p>眺 望 の 変 化</p>	<p>現状では、(主) 大阪和泉南線(あべの筋)の両側にアーケード商店街が形成された親近感のある商業空間、都心空間が形成されていたところで、(主) 大阪高石線(地点1)の街路景観と対照をなす阿倍野・天王寺地区におけるもう1つの代表的な通りである。 施設完成後は、市街地再開発事業の他、街路の拡幅も計画されており、目抜き通りとしての街路景観が創出される。その中において、計画施設は、低層階の西面が視認できる。既存施設に比べ高いビルが設置されるため、スカイラインの一部に変化はあるものの、透明感があり、落ち着いた色調で周囲と調和している。また、アーケード商店街と共存する街路景観に変化は少ない。洗練されたデザインは、市街地再開発事業や街路整備事業と一体となって代表性をより高める効果を上げており、大阪の南の玄関口にふさわしい新たな景観を創出しているものと考えられる。</p>

図 5.12.2 (3) 景観写真(地点3:住友信託銀行阿倍野支店前)

<p>現 況</p>	
<p>施 設 完 成 後</p>	 <p>注1) 百貨店新館（既存）と計画施設との外観に連続性を持たせる計画を検討している。 2) 歩道橋架替事業が計画されており、その内容を反映させた。</p>
<p>眺 望 の 変 化</p>	<p>現況では、（主）大阪高石線の両側に近鉄百貨店、阿倍野センタービルなどの中高層建築物が立ち並び、阿倍野・天王寺地区における目抜き通りの1つとして都心部の街路景観を形成している。この視点場では、近鉄百貨店が、その代表的な建築物となっている。</p> <p>施設完成後は、計画施設の低層階の西面と北面が視認できる。既存施設に比べ高いビルが設置されるため、スカイラインの一部に変化はあるものの、透明感があり、落ち着いた色調で周囲と調和している。透明感のある洗練されたデザインは、目抜き通りにおける代表性をより高める効果を上げており、大阪の南の玄関口にふさわしい新たな景観を創出しているものと考えられる。</p>

図 5.12.2 (4) 景観写真（地点4：エコアクロスビル前）

<p>現 況</p>	
<p>施 設 完 成 後</p>	 <p>注1) 百貨店新館（既存）と計画施設との外観に連続性を持たせる計画を検討している。 2) 歩道橋架替事業が計画されており、その内容を反映させた。</p>
<p>眺 望 の 変 化</p>	<p>現況では、（主）大阪和泉泉南線や JR 天王寺駅前のロータリー、周辺の建築物によって、ターミナル拠点としての景観を形成している。</p> <p>施設完成後は、計画施設の低層階の北面と西面が視認できる。既存施設に比べ高いビルが設置されるため、スカイラインの一部に変化はあるものの、透明感があり、落ち着いた色調で周囲と調和している。透明感のある洗練されたデザインは、ターミナル拠点を象徴するランドマークとなるものであり、大阪の南の玄関口にふさわしい新たな景観を創出しているものと考えられる。</p>

図 5.12.2 (5) 景観写真（地点 5：天王寺公園「天王寺ゲート」前）

<p>現 況</p>	
<p>施 設 完 成 後</p>	 <p>注 1) 百貨店新館（既存）と計画施設との外観に連続性を持たせる計画を検討している。 2) 歩道橋架替事業が計画されているが、詳細未定のため、その内容を反映させていない。</p>
<p>眺 望 の 変 化</p>	<p>現状では、建替前の百貨店の外観が視野の広い範囲をしめる街角景観が形成されている。 施設完成後は、計画施設低層階が視野の広い範囲を占めることになるが、現状においても視野の広い範囲に建築物がひろがっていることから、圧迫感の増加は小さいと考えられる。 また、透明度の高い外観（ガラスファサード）を用いた計画施設は、建築と街路とが一体となった広がりのある街路景観を創出すると考えられる。</p>

図 5.12.2 (6) 景観写真（地点 6：阿倍野歩道橋）

<p>現 況</p>	
<p>施 設 完 成 後</p>	 <p>注) 阿倍野再開発事業が計画されており、その内容を反映させた。</p>
<p>眺 望 の 変 化</p>	<p>現状では、天王寺公園「慶沢園」の樹木の背後に複数の中高層建築物が視認される。都心部における公園の代表的な景観といえる。</p> <p>施設完成後には、樹木の背後に計画施設中高層階の北面と西面が視認できる。計画施設の視野に占める割合は比較的大きいが、透明感のあるデザイン・色調の他、高さに変化を持たせた建築物としていることなどで圧迫感は軽減されている。</p> <p>特徴的なデザインにより、阿倍野天王寺地区のシンボルとなると考えられ、大阪の南の玄関口にふさわしい新たな景観を創出し、地域の新たなランドマークとして認識されると考える。</p>

図 5.12.2 (7) 景観写真 (地点7: 天王寺公園「慶沢園」)



現況	
施設完成後	
眺望の変化	<p>現状では、四天王寺境内の回廊の背後に複数の中高層建築物が視認され、歴史的建築物と近代的建築物が混在する景観となっている。</p> <p>施設完成後には、回廊の背後に計画施設中高層階の北面が視認できる。計画施設の視野に占める割合は比較的大きいが、すでに周囲には複数の建築物が立ち並んでおり、景観に与える影響はそれほど大きくないと考える。計画施設は現状の歴史的・文化的景観に加えられた新たな都市的景観要素として、大阪の南の玄関口にふさわしい新たな景観を創出すると考えられる。</p>

図 5.12.2 (8) 景観写真 (地点8: 四天王寺境内)

現 況	
施 設 完 成 後	
眺 望 の 変 化	<p>現状では、多くの中高層建築物が視認され、都市景観が形成されている。</p> <p>施設完成後には、周辺の建築物よりひとときわ高い計画施設の中高層階が視認できる。計画施設により、現状で視認されていたものが遮られることはない。また、透明度の高い外観や落ち着いた色調によって構成された計画施設は、大阪の南の玄関口に相応しい風格をもった地域のランドマークとして新たな景観を創出している。</p>

図 5.12.2 (9) 景観写真 (地点9: なんばパークス)



現況	
施設完成後	
眺望の変化	<p>現状では、手前に大阪城公園の緑地が、その先の市街地に多くの中高層建築物が視認され、緑の多い都市景観が形成されている。</p> <p>施設完成後には、計画施設の中高層階が視認できる。しかし、手前や周辺に高層建築物が分布しており、景観の変化の程度は小さく、緑の多い都市景観は維持されていると考えられる。</p>

図 5.12.2 (10) 景観写真 (地点 10 : 大阪城天守閣)

(4) 評 価

A) 環境保全目標

評価の指針（「4.4 調査、予測及び評価の手法」参照）をもとに環境保全目標を以下の通り設定し、評価を行った。

- ・魅力ある都市景観の形成及び周辺都市景観との調和に配慮していること。
- ・大阪市都市景観計画、その他景観法及び大阪市都市景観条例等に基づく計画または施策等の推進に支障がないこと。

B) 評価結果

事業計画地は、「大阪市都市景観条例」（平成18年4月1日改正）に基づき定められた「大阪市景観形成推進計画」（大阪市、平成19年）において、都市魅力景観形成地域の中の、「拠点として景観形成を図る地域」に位置づけられている。また、取組みの方向性として「これまでの景観施策、市街地開発の進捗状況や周辺市街地の状況を踏まえて、大阪のシンボルや顔といえる都市景観の目標・イメージを明確化させつつ、景観形成に関するルールづくりの検討を行う」こととされている。

また、景観の形成にあたり、以下の点に配慮した計画としている。

- ・外観については、大阪の南の玄関口である阿倍野・天王寺地域のランドマークとなるよう計画している。
- ・高層に行くほど、建物のボリュームを小さくすることや、中間階にオープンスペースを配置し、ボリュームを分節すること、また、ガラスを使用したシンプルで透明感があり、色彩にも配慮した外観にすること等により、圧迫感を軽減する。
- ・透明なファサードを通じて、内部のアクティビティが都市に溢れ出すことで、地域の人々に親しまれるとともに周辺地域の良好な景観形成にも寄与することを願った外観デザインとしている。
- ・低層階（百貨店）においては、百貨店新館（既存）と計画施設が美しく調和するよう、既存ファサードを改修する計画を検討している。
- ・計画施設の外観・色彩及び広告表示等については、大阪市担当部局と協議を実施し、周辺環境や既存建物との調和を図る。

以上のことから、環境保全目標を満足するものと評価する。